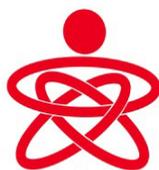


平成 29 年度

歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業 【事例集】



文化庁
Agency for Cultural Affairs

地域文化創生本部

はじめに

近年、文化財を観光はじめ様々な形で活用する機運が高まっています。平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」では、「文化財の観光資源としての開花」が目標の一つに掲げられ、文化財を国の観光資源として活用していくことが明文化されました。文化庁では、これを受けて「文化財活用・理解促進プログラム2020」を策定し、2020年までのアクションプログラムとして「歴史文化基本構想策定地域（観光拠点）の文化財整備等を多重的に支援する」こととしております。

こうした状況を踏まえ、文化庁では、歴史文化基本構想に基づき文化財を中核とする観光拠点形成を効果的に促進する総合的な取組を支援することにより、地域の活性化を図るとともに、我が国の文化財の価値を国内外に発信し未来につないでいくことを目的として、平成29年度に「歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業」を創設しました。この事業は、歴史文化基本構想を策定した地方公共団体を中心に構成する官民協働の協議会に対し、情報発信、人材育成、普及啓発、活用整備といった観光拠点を形成するために必要な幅広い事業に対して3年計画で補助を行うものです。

事業開始から1年余りが経過し、複数の協議会が個性あふれる多様な事業を実施しています。文化庁に対しては、事業未実施の自治体や歴史文化基本構想を策定中の自治体からも、歴史文化基本構想を観光に活用するための相談が日々寄せられるようになり、本事業に対する関心の高さを感じます。

今回発行した事例集は、実施初年度である平成29年度に全14事業者で行われた「歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業」のうち特色あるものについて、各事業者がそれぞれ1頁にまとめて説明するものです。実施事業の概要だけでなく、各事業の基礎となる歴史文化基本構想の概要や、各自治体における観光拠点形成の方向性、観光に対する課題、事業実施後の成果についても記載しています。これは、単に各事業者が実施した事業の内容を知っていただくだけでなく、今後事業実施を検討している自治体が、自らの抱える課題等と対照させながら読み進めることで、これから実施する事業へのヒントを得ていただくことを目的として記載したものです。

平成31年4月から、改正文化財保護法が施行され、歴史文化基本構想を発展させた「文化財保存活用地域計画」の認定を開始します。各自治体においても、文化財の観光への効果的な活用への機運は、さらに高まっていくと考えられます。この事例集が、各自治体の文化財を活用した観光拠点形成の一助となれば幸いです。

平成30年9月
文化庁 地域文化創生本部 事務局長
松坂 浩史

目次

歴史文化基本構想とは？	1
歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業とは？	2
歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業の事例	
栃木県下野市	3
神奈川県伊勢原市	4
富山県高岡市	5
愛知県名古屋市	6
愛知県瀬戸市	7
滋賀県東近江市	8
大阪府河内長野市	9
兵庫県高砂市	10
兵庫県篠山市	11
兵庫県朝来市	12
兵庫県神河町	13
島根県津和野町	14
福岡県添田町	15
宮崎県日南市	16

歴史文化基本構想とは？

概要

地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるものです。

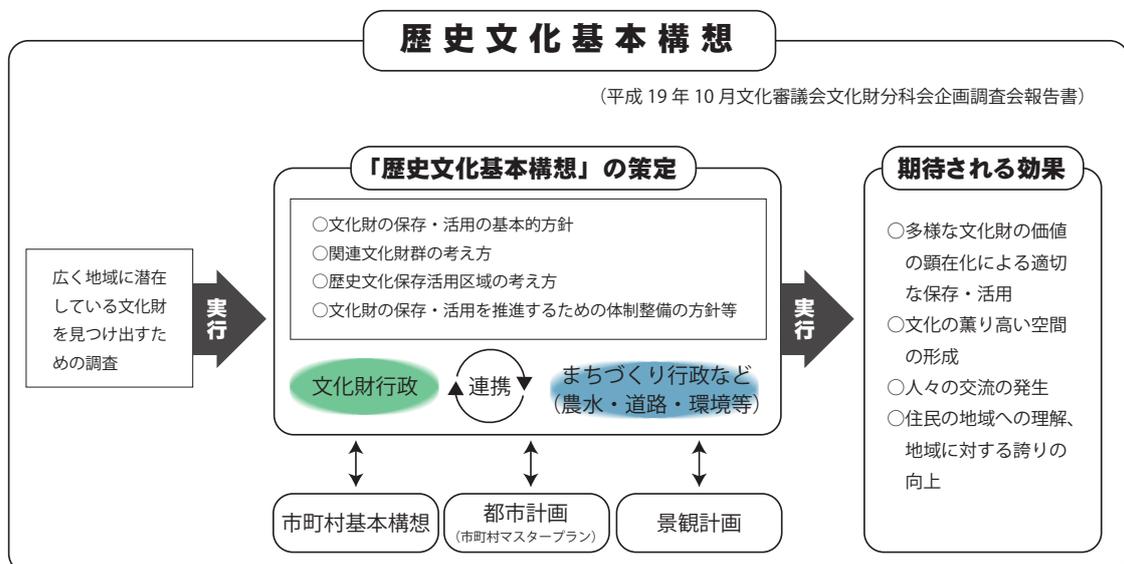
理念

- 地域のアイデンティティの確保及びそのきずなの維持
- 人々の生活の中での文化財の保存及びその根底にある知と技の継承

「歴史文化基本構想」に記載する事項（例）

基本的事項	選択的事項
<ol style="list-style-type: none">1. 「歴史文化基本構想」策定の目的・行政上の位置づけ2. 地域の歴史文化の特徴3. 文化財把握の方針4. 文化財の保存・活用の基本の方針8. 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針	<ol style="list-style-type: none">5. 関連文化財群に関する事項6. 歴史文化保存活用区域に関する事項7. 保存活用（管理）計画作成の考え方 （番外：その他、地域の実情に応じた項目）

「歴史文化基本構想」によるまちづくり



歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業とは？

趣旨・目的

文化財は、それが置かれた環境の中で、人々の営みと関わりながら、歴史的に価値を形成してきました。それらはお互いに関連性を持って地域に根ざしています。また、文化財を後世に継承していくためには、その価値をわかりやすく伝える必要があります。そのため、個々の文化財をきちんと保護するというに加えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境を含めて総合的に保存・活用するための基本的な構想「歴史文化基本構想」（以下「基本構想」という。）を持つことが大切であり、文化庁では策定の支援を行ってきました。

また、平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」（明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）では、「文化財の観光資源としての開花」が目標の一つに掲げられました。これを受けて文化庁では「文化財活用・理解促進プログラム2020」を策定し、2020年までのアクションプログラムとして、「歴史文化基本構想策定地域（観光拠点）の文化財整備等の多重的な支援」を位置付けたところです。

こうした状況を踏まえ、本事業は、基本構想で定めている関連文化財群や歴史文化保存活用区域内の文化財の活用を図る観光拠点づくりに資する総合的な取組を支援することにより、地域経済の活性化とともに我が国の文化財の価値を国内外に発信し文化財を未来に繋いでいくことを目的としています。

補助事業の内容

基本構想を活用した観光拠点づくりに資する以下の事業

- (1) 情報発信事業
- (2) 人材育成事業
- (3) 普及啓発事業
- (4) 活用のための整備に係る事業
- (5) 上記(1)から(3)の事業を構想するために必要な取組

下野市【栃木県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■ 協議会メンバー…
下野市観光協会 / 株式会社道の
駅しもつけ / 下野薬師寺ボラン
ティアの会 / 児山城址守り隊 /
下野市文化財保護審議会 / 下野
市小中学校長会 / 下野市の関係
部局

■ 構想策定年度…
平成二十八年一月
■ 補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

下野市は栃木県内で最小の市だが、500以上の遺跡と106の指定文化財が存在している。これらは、当地が各時代を超え「北・南と東・西を結ぶ一大交通拠点」として、ヒトとモノの流れがあったことを示している。そこで、古代から近世までの交流や交通を主眼として、各時代ごとに関連文化財群を設定し、これらの文化財の保存活用を推進している。

観光拠点形成の方向性

- ・文化財の保存・活用を前提とした歴史まちづくりの推進
- ・「東の飛鳥」として文化財の広域的な活用を図る

観光に関する課題

- ・各史跡等での個々の取組みはあるが連携した取組みがない
- ・観光客が周遊して文化財を見学することが少ない
- ・市内全域を案内するガイドの不足

事業概要

VRにより古墳を復元

市内には首長墓である大型の古墳が点在するが、消滅した古墳もあることから、一部地域のみに見学者が訪れていた。そのため、市内に広く分布する各古墳に見学者が訪れるきっかけとなるよう、消滅した古墳も含めてVRにより8基の古墳の復元を行った。

KPI 資料館等入館者数：27,000人(H28)⇒32,000人(H31)

情報
発信



文化財周遊アプリの導入

観光客が市内の文化財を周遊して見学することが少ないことから、古墳復元VRを活用して、市内の古墳への周遊を促すためのアプリを導入した。見学者が利用しやすいよう、古墳に関連する文化財や休憩場所等の周辺スポットについても表示した。

KPI 資料館等入館者数：27,000人(H28)⇒32,000人(H31)

情報
発信



文化財観光ガイド養成講座を実施

特定の史跡を対象としたガイド組織は存在するが、市内全域の文化財を対象としたガイドがないため、市内の文化財を網羅的にガイドできるよう、ガイドの養成講座を実施した。講座は受講生が自主性を持てるよう、講座形式のみでなくワークショップ形式でも実施した。

KPI 観光文化財ガイド登録者数：0人(H28) ⇒30人(H31)

人材
育成



歴史文化遺産カードで事業を発信

「東の飛鳥」として文化財の広域的な活用を発信するために、資料館来訪者向けに歴史文化遺産カードを作成した。古墳復元VR画像を活用し、裏面には、文化財周遊アプリの利用を促すようQRコードを掲載し、市内の古墳の見学のため市内を周遊できるようにした。

KPI 文化財関連イベント参加者数：
2,000人(H28) ⇒3,000人(H31)

普及
啓発



成果

① 古墳等の見学者の増加

過去に制作した下野薬師寺の復元VRアプリとともに、古墳復元VRの公開により、古墳等の文化財の見学者が増加した。アプリのガイド機能により、市内の文化財を巡る人も見られるようになった。

② 文化財への関心の高まり

文化財観光ガイド養成講座を実施したところ、定員を上回る市民等が参加した。講座実施後もガイドとして活動を継続する方が20名程度おり、今後継続して講座を実施することにより、多くの方の参加が見込まれる。

伊勢原市【神奈川県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
伊勢原市／大山阿夫利神社／大
山寺／宝城坊／比々多神社／大
山観光振興会／比々多観光振興
会／たかべや緑の里振興会／伊
勢原市文化財保護審議会／伊勢
原市文化遺産活用実行委員会

■構想策定年度…
平成二十八年一月…
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

伊勢原市は丹沢の霊峰である大山の麓に広がり、豊かな自然と長い歴史、多彩な文化財を有する。古代からの大山への信仰が江戸時代に花開き、現在へと引き継がれる「大山詣り」をはじめとする地域共有の財産を、後世へ確実に継承していくことを目指す。さらに、市民団体等との協働、関係諸機関との連携により、歴史・文化遺産を地域の活性化やまちづくりにも活用していく。

観光拠点形成の方向性

- ・豊かな自然環境と歴史・文化遺産を重要な観光コンテンツと位置づける
- ・歴史文化基本構想に沿い、文化財の活用によりその保存・継承を図る

観光に関する課題

- ・文化財の集中エリアを周遊することにより、観光客の滞在時間を伸ばす
- ・文化財の活用と継承のために、広くその価値の共有化を図る必要がある

事業概要

周遊を促す文化財案内看板等の整備

地域の文化財を巡るための案内サインを補完し、地域を越えた周遊を図るための案内看板を設置した。大山や日向といった地区ごとのテーマカラーを定め、周遊パンフレットとも連携した統一的なデザインとした。

KPI 伊勢原市への入込観光客数:
約1,900,000人(H28)→約2,300,000人(H31)

情報
発信



海外への情報発信、ホームページの英語化

市域の文化財を、海外へも情報発信していくため、市のホームページである「いせはら文化財サイト」内の外国人にとって難解な歴史的用語や補足説明が必要な文化財解説の英訳を行った。

KPI 文化財ホームページの閲覧数:
35,000件(H28) →41,000件(H31)

情報
発信



文化財を支える地域力、人材育成と活動の支援

地域の文化財を地域の力で護っていくため、ボランティア養成講座を開講、卒業生を歴史解説アドバイザーとして認定した。認定者は、調査、ガイド、看板づくり等、文化財に関わる自主的な活動を続け、市も取組みを支援した。

KPI 文化財ボランティアの認定者数:
97人(H28) →110人(H31)

人材
育成



地域の魅力を再認識、モニターツアーの実施

魅力ある文化財を有効活用していくため、シニアのウォーキング団体や旅行会社社員、ファミリー層の宝探しイベント会員を対象にツアーを実施し、幅広い世代から聴取した意見をセミナーで地元住民、事業者等と共有した。

KPI 文化財を活用したツアー等の件数:
0件(H28) →5件(H31)

普及
啓発



成果

① 知名度の向上と周遊環境の整備

豊富な文化財がありながら、知名度の向上が課題となっていた日向地区について、文化財による地域のPRを図り、また、統一的な案内看板や方向サインにより地域内外を周遊しやすい環境が整備された。

② 地域の理解と結束力の強化

地域団体との協働事業により、地域の文化財の価値と意義の認識、それらを擁する地域の魅力についての理解が深化した。さらに、その活用の際の連携の土壌が培われ、協力体制が強化された。

高岡市【富山県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
高岡市日本遺産推進協議会／勝興寺まちづくり協議会／高岡市教育委員会

■構想策定年度…
平成二十三年三月
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

文化財の保存・活用を通して、歴史や風土を学び、ものづくり文化をさらに洗練していくことを目指す。また、市民一人ひとりが高岡市の「人・ものづくり・文化」を担っているという意識を高めていくことを通して、市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちを実現していくことを将来像とする。

観光拠点形成の方向性

- ・日本遺産認定、ユネスコ無形文化遺産登録を活かす環境整備
- ・北陸新幹線開業を契機とする高岡の多様な文化、伝統、産業の活用

観光に関する課題

- ・中心市街地から離れている伏木地区の歴史的価値等の魅力発信
- ・インバウンド対応として施設案内や文化財紹介の多言語化



事業概要

①伏木地区紹介VTR制作

情報発信

現在、平成の大修理中である重要文化財 勝興寺に代表される貴重な文化財の歴史的背景やその価値を気軽に知ること、より印象深い観光体験となるよう、伏木地区の魅力を美しい映像と多言語（日本語、英語、中国語、台湾語）対応のナレーションで紹介したVTRを作成。



■KPI 勝興寺ほか2館の来場者数：17,484人(H27)→18,009人(H31)

勝興寺を舞台とした座談会等の開催

普及啓発

勝興寺の大修理完工、全面公開へ向け、地元・伏木地区はじめ、市民の期待が高まる中、地域の宝を後世に継承していくため、勝興寺を想う市民による座談会等のユニークベンチャーを開催。当座談会等での意見・アイデアを参考に、次年度以降も観光振興をはじめ、地域住民が主体となった取り組みの創出を目指し、勝興寺を活用したイベント等を企画・開催予定。



■KPI 勝興寺ほか2館の来場者数：17,484人(H27)→18,009人(H31)



成果

① 「おもてなし」環境の向上

伏木地区の紹介VTRやユネスコ無形文化遺産に登録されている高岡御車山祭を体感できる会館案内の多言語化を図ることで、訪日外国人観光客に高岡をより楽しんでもらえる「おもてなし」環境が向上した。

② 文化財による観光地域づくり

勝興寺を後世に継承していくための手段として、勝興寺寺内町が観光客をはじめ、多くの人々が交流する場となるよう、観光地域づくりをけん引していく地域人材の発掘や体制の構築の足掛かりとなった。

名古屋市【愛知県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
名古屋市教育局文化
財保護室/名古屋市観
光文化交
流局ナゴヤ魅力向上
法まちづくり推進室
史まちづくり推進室
ビュロイ他

■構想策定年度…
平成二九年三月
■補助事業期間…
平成三〇年三月一日
平成三〇年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

本市構想では、名古屋城下や熱田神宮周辺など「名古屋を代表する文化財」と市域全体に広がる「身近なまちの文化財」に分けて課題を整理した。前者の重要性は市の主要計画などでも取り上げられており、着実に名古屋らしい魅力を創出し、歴史観光につなげていくことを目指す一方、後者についても市民参加の調査体験等でその価値を明らかとし、活用につなげていくことを目指すこととした。

観光拠点形成の方向性

- ・名古屋城や熱田神宮の価値を高める
- ・周辺地域に集客の拠点をつくる
- ・中心部と周辺部の拠点それぞれの価値を高め互いにつなぐ

観光に関する課題

- ・観光地が点として捉えられがち
- ・観光の目的地が少ない
- ・文化財の認知度が低い
- ・外国人の受け入れ体制が不十分

事業概要

「GO!GO!しだみ古墳群」

名古屋市守山区に所在する国指定史跡 志段味古墳群を楽しみながら巡るためのスマートフォン・タブレット端末用のアプリを作成した。VR（仮想現実）・AR（拡張現実）技術を用いて、古墳の埋葬施設や1400年前の風景を再現。また、実際に古墳を巡りながら楽しむRPGを通して、史跡や古墳時代の理解が深まるアプリとなった。

■KPI ダウンロード数：100(H28)→1,000(H31)

情報
発信



アプリと連動した文化財観光マップ

観光拠点である名古屋城、熱田神宮から周辺地域へと広がる地域を中心に、歴史文化基本構想の関連文化財群を紹介するマップを作成した。山車の3Dモデルが立ち上がるARマーカーなどを組み込むとともに、構想策定の際の関連文化財群を取り上げて観光資源とするマップとなった。

■KPI ダウンロード数：100(H28)→1,000(H31)

情報
発信



子ども向け文化財観光ガイドブックの作成

名古屋城・熱田神宮の他、古墳・古窯を紹介する観光ガイドブックとなり、子どもたちの視点で文化財を楽しめる内容となった。博物館施設などの紹介も加えたため、子どもたちがこれを見たいと家族に観光の行き先として提案することが期待できる。

■KPI 市観光客・宿泊客数：
43,310,000人(H28)→47,000,000人(H31)

情報
発信



集客施設を起点とした文化財ウォーキング

観光拠点を起点としたウォーキングマップを、観光基盤情報アプリと関連づける形で3種類作成し、うち1種類を用いて効果検証のために、熱田神宮から周辺の新田開発地帯へ誘導するコースを歩くイベントを行った。観光文化財アプリ等との併用により活用の幅が広がることが確認できた。

■KPI イベント等参加者数：200人(H28)→220人(H31)

普及
啓発



成果

① 外国人の情報利用者が増加

名古屋城・熱田神宮の来場者をもても海外からの観光客の増加傾向が認められる。29年度観光文化財アプリ「なごや歴史探検」のダウンロード者の3割程度が中国語圏のユーザーであった。

② 観光資源として期待される、まちの文化財

マップなどで取り上げた文化財は指定文化財に限らなかったが、ウォーキングなどでも新しい発見があったと好評であった。こうした地域の文化財の「見える化」が十分に観光資源化につながることが確認できた。

瀬戸市【愛知県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■ 協議会メンバー…
瀬戸商工会議所／瀬戸市まるつ
とミュージアム・観光協会／瀬
戸まちづくり株式会社／瀬戸市
国際センター／公益財団法人瀬
戸市文化振興財団／瀬戸市

■ 構想策定年度…
平成二十九年二月
■ 補助事業期間…
平成三〇年三月三〇日
平成三〇年九月一日

歴史文化基本構想の概要

瀬戸市は千年以上の窯業の歴史を持ち、「陶都」とも呼ばれる都市である。その背景には、窯業生産に適した豊かな自然資源や環境、尾張・三河・美濃三国の境界地であるため各地の文化を取り入れてきた歴史などがある。こうした歴史や文化を示す市内の歴史文化遺産を総合的に把握し、瀬戸市特有の風土も踏まえ、関連文化財群を8つのストーリーにまとめている。

観光拠点形成の方向性

- ・ 歴史文化を観光地域資源とし、ストーリーに基づき面的整備を図る
- ・ 「せともの」を切り口に地域の産品などのブランド化を図る

観光に関する課題

- ・ 観光客や市民の瀬戸の認知度不足
- ・ 歴史文化情報の未整理と一元化不足
- ・ 地域資源の新たな発掘が不十分
- ・ 地域資源のネットワーク化が不十分

事業概要

瀬戸市歴史文化ポータルサイト作成事業

近年、観光情報の入手先はインターネットが中心となっていることから、観光情報として瀬戸市の歴史文化を紹介するポータルサイトを作成し、貴重な古写真などをアーカイブ化して公開した。

■ KPI ポータルサイトアクセス数：0(H28)→10,000(H31)

情報発信



瀬戸市歴史文化ガイドブック作成事業

市内にある魅力的な地域資源を紹介し、市内全域にわたる地域資源を巡る回遊性の高いガイドブックを作成した。個人観光客でも周遊しやすく、歴史文化遺産の理解が深まる内容とした。

■ KPI 市の入込観光客数：
2,050,000人(H28)→2,070,000人(H31)

情報発信



瀬戸市地域資源ガイドマップ作成業務

地域資源を活用したまち歩きの間を通して、まちの交流人口の増加を図り、観光客に地域ごとの歴史文化遺産の見どころを発信するためガイドマップを作成した。コースは観光ボランティアと共同で作成し、窯垣や陶祖碑など、瀬戸でしか見れない風景をテーマ別に歩けるものとした。

■ KPI 市の入込観光客数：
2,050,000人(H28)→2,070,000人(H31)

情報発信



女性目線のおでかけプログラム実施事業

女性目線で、土地に息づくストーリーを楽しむ大人のおでかけプログラムを企画し、自分ならではの歴史と文化体験を選び、知的好奇心を満たす旅の提案ができる冊子を作成した。観光業者と連携した観光商品の作成をめざし、来訪者の増加を目指す。

■ KPI 観光案内所を訪れる女性の増加割合：
0%(H28)→5%(H31)

情報発信



成果

① 地域資源のみえる化

ガイドブック、ガイドマップの作成により、これまで地域観光資源として捉えられていなかった歴史文化遺産も来訪者に魅力的な資源として紹介されるようになった。

② 新たな観光プログラムの開発

やきもののみちを巡るストーリーを提示したり、ガイドブックやおでかけプログラムの中から自分にあった旅を選択できるようにしたことにより、多くの地域資源を巡ることができるようになった。

東近江市【滋賀県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

関西地方



■協議会メンバー…
東近江市社会福祉協議会／八日市商工会議所／近江鉄道株式会社／東近江市観光協会／八日市地区まちづくり協議会／清水・小脇街づくり委員会／東近江市

■構想策定年度…
平成二十九年三月
■補助事業期間…
平成三〇年九月一日
平成三〇年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

平成18年に1市6町（3郡）が合併し、三重県境の鈴鹿山脈から琵琶湖までを市域に持つ。市域は、山・里・湖の地域を一級河川愛知川が貫流し、地域ごとに聖徳太子や織田信長にゆかりの地、木地師文化の発祥の地や近江商人の本宅群など豊富で多彩な文化財が市域全域で見られる。これら広範囲にわたる多様な文化財を可視化し、認知と活用の促進を目的に方針を定めた。

観光拠点形成の方向性

- ・「点」の文化財を「線」でつなぐ
- ・鉄道路「線」を活用した「周遊」
- ・参加や体験を通じた国内リピーターや外国人観光客の獲得

観光に関する課題

- ・起点（駅周辺）や経路の案内の不在
- ・個々の文化財同士の繋がりが弱い
- ・観光客（外国人含む）向けホスピタリティや提供コンテンツ等の不足

事業概要

聖徳太子関連文化財情報発信推進事業①

近江鉄道路「線」を利用し、駅基点とした周遊コースを設定。起点や経路にコース案内看板を設置した。コース上には見どころとなる文化財とその文化財における聖徳太子の伝承の説明看板を設置した。説明看板には日本語表記に加え英語解説も記載し、外国人観光客に対応した。

【KPI】 太郎坊宮参拝者：200,000人(H28)→250,000人(H31)

情報発信



聖徳太子関連文化財情報発信推進事業②

近江鉄道太郎坊宮前駅や八日市駅を起点として、聖徳太子をテーマとしたモデルコースに基づき、歩いて回るコース案内マップを作成。モデルコース周辺の見どころを掲載し、看板と連携しつつ観光客が興味を持つ見どころを探しつつ回れるものとした。日・英・簡版を作成。

【KPI】 太郎坊宮参拝者：200,000人(H28)→250,000人(H31)

情報発信



人材育成

聖徳太子関連文化財ガイド養成事業

箕作山周辺に豊富に残る聖徳太子伝承。今回のガイド養成講座では、個々の文化財に聖徳太子がどう関係したのかという事や、文化財相互の関係性を聖徳太子に絡めて語れる人材を養成した。さらに鉄道を絡めた豊富なコース案内などでもできる総合ガイドを養成した。

【KPI】 ガイド登録者数：8名(H28) →16名(H31)



普及啓発

聖徳太子をテーマとしたモデルコース作成事業

今回の区域内は、鉄道路「線」でつながっており、近江鉄道路「線」と3つの駅。これらを起点に文化財を周遊することで、聖徳太子の足跡をたどり、満喫できるコースを作成した。将来は観光ガイドの拠点を駅に設置し、駅を起点に多彩なコースで地域を満喫してもらえるようにする。

【KPI】 観光ガイド利用者数：700人(H28) →1,400人(H30)



成果

① 太郎坊宮参拝者数25万人達成

各駅舎及びコース上案内板、説明板の設置、周遊マップの作成と観光関連事業を連携して実施した結果、太郎坊宮参拝者数が、平成31年度目標25万人（当初比5万人増）を前倒して達成できた。

② ガイド登録者数の増加

聖徳太子という地域資源に注目したガイド講座を募集したところ、14名の応募があり、座学や現地研修の結果、2名の新規ガイド登録を得られた。引き続きガイド養成を行いホスピタリティの向上につなげる。

高砂市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー…
高砂市観光交流ビューロー／高砂商工会議所青年部／高砂青年会議所／高砂市国際交流協会／高砂市／高砂市教育委員会

■構想策定年度…
平成二十三年三月
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日～
平成三十一年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

高砂市は、市域中央の山地で1700年以上採石されてきた「竜山石の文化」、川と海の結節点に築かれ文化・経済の交流拠点となった「みなとのまち」をはじめ、4つの関連文化財群の保存・活用を図りながら、市民が地域に誇りをもち、資源を顕在化し再生していくことを基本方針としている。地域の個性をまちづくり・ひとづくりの中で活かしながら、地域づくりや活性化を図っていく。

観光拠点形成の方向性

- ・市民や海外旅行者などの来訪者に向けて地域の魅力を発信する
- ・後継者の育成を図りながら観光を通じた地域の再生に取り組む

観光に関する課題

- ・観光拠点を明確にし市域全域に点在する資源をつなげる必要がある
- ・来訪者が歴史文化の価値や魅力を感じられる取組みが不十分である

事業概要

竜山石の文化・みなとのまち 情報発信事業

市民や観光客に対し、「竜山石の文化」と「みなとのまち」をわかりやすく、かつ深く理解してもらう情報を発信するため、映像・画像をまじえて歴史文化を紹介するコンテンツを制作し、観光案内HP内にリンクした。次年度以降に多言語対応の観光案内HPの制作をするため、既存HPのコンテンツを充実・拡大し、大幅なリニューアルを実施する予定である。

■KPI 文化財施設の見学・活用事業の実施学校数：
0校(H28)→16校(H31)

情報
発信



文化観光ガイド育成事業

観光客に、高砂市の歴史、文化を正しく理解してもらうために、文化観光ガイドの養成講座を実施し、人材育成に取り組んだ。既存のガイド団体構成員が主に参加し、公募も行い、幅広い人材の確保に努めた。将来的には外国語によるガイドが可能となるよう、インバウンド対応の講座を開催する予定である。

■KPI 文化観光ガイドの登録者数：10人(H28)→30人(H31)

人材
育成



成果

① HPによる情報発信の拡張

観光案内HP内に竜山石関連ページを組込むことで、高砂市に関心を持つ閲覧者がダイレクトに情報を得ることができるようになった。観光情報だけでなく、歴史文化の魅力を感じてもらえる機会となった。

② ガイド育成による人材確保

参加者は既存のガイド活動にとどまらない幅広い知見や接遇のあり方等を学ぶ機会となり、地域の歴史文化の魅力を広めてもらえる人材の育成につながった。また、既存団体間の連携を図ることもできた。

歴史文化基本構想の概要

篠山市内に残る城下町や宿場町、農村集落、旧街道沿いに残る街道集落、またこれら街道や集落周辺に広がる豊かな農産物を生みだす田畑や山林などの自然風景等の「日本の原風景 篠山」の構成要素となる文化財を総合的にとらえ、積極的な保存・活用を図り、歴史・文化を活かしたまちづくりを進めていく。

観光拠点形成の方向性

- ・重伝建地区である福住地区を観光拠点として整備する
- ・京都を訪れる観光客を篠山に誘引する仕組みづくりを行う

観光に関する課題

- ・外国人観光客向けの看板やパンフレット類の拡充
- ・市内を周遊できる観光ルートの開発
- ・周辺地域との連携

篠山市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



関西地方

■協議会メンバー…
福住地区まちづくり協議会／福
住まちなみ保存会／住吉神社／
篠山市教育委員会事務局文化財課

■構想策定年度…
平成二十三年三月
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十一年三月三十一日

事業概要

古地図散歩が出来るWebページの開発

古地図を表示してまち歩きが出来るWebページを開発する。平成29年度は保有している古地図についての調査を行い、古地図の専門家や古地図を表示できるWebページの開発業者との協議を実施した。

KPI アプリ・ダウンロード数：0件(H28)→19,000件(H31)

情報
発信



西京街道ツアーモニターの実施

京から篠山を通じて山陰道へ続く西京街道を活用して、京都市発着のバスで福住地区から篠山城下町までを観光するツアーモニターを実施した。参加者の半数以上は外国人であり、英語通訳のガイドが同行した。

KPI ツアーモニターの実施数：0件(H28)→9件(H31)

普及
啓発



住吉神社の駐車場整備とトイレの設置

観光拠点として福住地区を整備するため、平成29年度は福住地区の住吉神社駐車場を整備し、トイレを設置した。駐車場は重要伝統的建造物群保存地区にふさわしいカラー舗装を施し、バリアフリー対応のトイレを設置した。

KPI 駐車場の利用台数：500台(H28)→3,000台(H31)

活用
整備



住吉神社「住之江の庭」の再生と活用

住吉神社にある名作庭家重森三玲が手がけた「住之江の庭」を観光拠点として再生・活用するために、一般市民を対象として「住之江の庭」の知識や技術を学ぶ。平成29年度は講演会とワークショップを開催した。

KPI ワークショップの参加人数：0人(H28)→30人(H31)

人材
育成



成果

① 文化財の保存・活用への理解の深化

「住之江の庭」に関する講演会とワークショップを行い、その内容をまとめた報告書を参加者に配布することで、文化財の保存・活用への理解をより深めることができた。

② メディア発信による地域の関心の向上

ツアーモニター事業と「住之江の庭」の事業が3紙の新聞で紹介され、地域の文化財の保存・活用への関心が高まり、今後は地域における自発的な保存・活用が期待される。

朝来市【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

関西地方



■協議会メンバー…
和田山町観光協会／生野町観光協会／いくの地域自治協議会／奥銀谷地域自治協議会／大蔵地域自治協議会／竹田地域自治協議会／梁瀬地域自治協議会

■構想策定年度…平成二八年三月
■補助事業期間…平成二九年九月一日～平成三〇年三月二五日

歴史文化基本構想の概要

朝来市は、山陰道・播但道・古代官道の結節点、すなわち「但馬の南玄関」である。古代から朝鮮半島との独自交流によって発展し、中近世には全国屈指の銀山を擁する生野が天下人の財源を支え、周辺に強固な城郭が作られた。明治には官営鉱山として日本の近代化に大きく貢献した。人・モノ・文化交流の中心地として発展した地域の個性を、観光振興、まちづくりに活かしていく。

観光拠点形成の方向性

- ・歴史文化遺産を地域の誇りとして後世に残す
- ・朝来市の強みを観光資源として市内周遊観光ルートを創造する

観光に関する課題

- ・スポット的に観光客が訪れているが市内周遊の誘導ができていない
- ・市内一括の情報発信ができていない
- ・幹線道路からの看板設置が不十分

事業概要

朝来市内の中世山城PR冊子の作成

竹田城跡へ来訪する城郭好きの観光客を、朝来市内に存在する他の山城へ誘導するため、個性的で多様な山城群の集中する大蔵地区の中世山城PR冊子及びパンフレットを作成した。市内外の観光施設や道の駅、竹田城跡関連施設に配布し、観光客の誘致を図った。

■KPI 大蔵地区中世山城への観光客数：
0人(H28)→5,000人(H31)

情報
発信



朝来市周遊歴史文化遺産マップの作成

今まで知られていない市内歴史文化遺産を一堂に紹介し、観光客が自由に市内を周遊してもらうことを目的として、朝来市周遊歴史文化遺産マップを作成した。市内外の観光施設、道の駅などに配布することで、市外からの観光客の手に渡るようにした。

■KPI 朝来市への観光客数：
2,293,496人(H28) → 2,400,000人(H31)

情報
発信



中世山城普及講演会の開催

観光客を迎え入れるためには、まず地域住民が地域の歴史文化遺産を知り、愛着を持つことが必要であるとの考えから、竹田城跡と大蔵地区の山城との関連性、但馬の山城の魅力を語る講演会を開催した。地元住民だけでなく広く周知を行うことで、但馬域内の聴講者を得た。

■KPI 大蔵地区歴史文化遺産を活用したイベント：
1回(H28) → 10回(H31)

普及
啓発



朝来市大蔵地区の山城観光環境の整備

これまで見学、観光することができなかった大蔵地区の山城へ観光客を呼び込み、市内周遊を図るため、大蔵地区の山城案内看板を設置した。各山城に設置する看板デザインと、大蔵の山城パンフレットの図柄を統一し、復元イラストを付けることで興味が持ちやすくなるよう配慮した。

■KPI 市内の中世山城を活用した連携イベント：
0回(H28) → 2回(H31)

活用
整備



成果

① 地域住民の関心が高まった

地元の歴史文化遺産に関心を持ち、歴史を学んだり自発的に地域の歴史文化遺産を調査する動きが市内全域で出来つつある。郷土愛やおもてなしの心の醸成が、観光客誘致に効果を発揮すると期待される。

② 観光客の周遊が増加傾向

即効的な成果は出ていないが、マップを手にした観光客や今まで知られていなかった歴史文化遺産への来訪者が徐々に増加してきている。

歴史文化基本構想の概要

私たちの町、神河町では、文化財や地域で長く伝えられてきた“宝もの”を「歴史文化遺産」と呼び、次世代に受け継いでいくための様々な取組みを進め、まちづくりに活かしている。そして、歴史文化遺産を活かしたまちづくりをより一層効果的に進めていくために、「神河町歴史文化基本構想」「神河町歴史文化保存活用計画」を策定した。

観光拠点形成の方向性

- ・歴史文化遺産を検証し後世に伝える
- ・魅力と価値を体感できる場を整える
- ・学びと交流のフィールドづくり
- ・ものがたりを支える体制をつくる

観光に関する課題

- ・現況を損なわない復元整備
- ・地域内での価値や情報の共有
- ・地域外への情報発信
- ・有効活用のための補足調査

神河町【兵庫県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業

普及啓発

神河の魅力発信歴史ウォーク

事業概要

関連文化財群の「かみかわ歴史文化ものがたり」のストーリー「但馬街道と生野鉱山寮馬車道に係るものがたり」と平成29年4月に日本遺産に認定された「播但貴く、銀の馬車道 鉱石の道」の内容をもとに、沿道区域にある歴史文化遺産の魅力を高め、地域の誇りとして町内外にPRする。平成29年度は、神河町内の生野鉱山寮馬車道の約7.5kmにおいて歴史文化の解説や地域のおもてなしを楽しむウォークを開催した。



KPI イベントへの参加者総数：500(H28)→2000(H31)

馬車道沿道観光拠点推進保存整備事業

活用整備

「唯一現存する馬車道」と呼ばれている生野鉱山寮馬車道の面影が残る里道を、往時を感じる空間として伝えるため整備を継続的に進める。平成29年度は、国道312号の隣接地に道の駅「銀の馬車道・神河」が建設されたことから、道の駅への来訪者を当該地へ誘導することも含め誘導案内のサインを設置した。サインは、既存のサインとの連動や周遊を促すものとした。



KPI 町への入り込み観光客数：25,000人(H28)→40,000人(H31)



関西地方

■協議会メンバー…
地域住民／観光協会／商工会等
の関係団体／行政

■構想策定年度…
平成二十八年三月
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十年三月三十一日

① 魅力ある体験メニューの開発

町内外の参加者に地域の食文化や民俗芸能を含む歴史文化を紹介したことにより、神河の魅力の発信に繋がった。今後は町内はもとより町外への発信に向けた取組みの充実を図っていきたい。

② 観光客の滞在時間が増加

平成29年11月25日にオープンした隣接の道の駅「銀の馬車道・神河」や商業施設との連携により町内への来訪者は大きく増加した。今後は町域を超えた連携をとり来訪者の増加を図り観光振興に努める。

成果

歴史文化基本構想の概要

津和野町の文化財を将来にわたって的確に保存・活用していくため、住民の参加と協力による「体制」作りと「調査・活動」を基本方針とし、「城下町の史跡と文化」をはじめとした8つの関連文化財群と、「天領と川が育んだ町並み景観」など10箇所の歴史文化保存活用区域などに設定された保存・活用の方策を実施していく。

観光拠点形成の方向性

- ・ 町内文化財等の地域資源の魅力向上
- ・ 旧城下町と旧天領エリアをつなぐ交通体系の充実
- ・ 回遊性のあるまちづくり

観光に関する課題

- ・ 誘導、導線の整備
- ・ 施設の案内機能および駐車場の整備
- ・ 周遊にかかるイベントの連携
- ・ 旧天領エリアの魅力発信

滞在コンテンツの作成

観光客が少ない旧天領2地区に観光客を呼び込むことを目的に、地元郷土史研究グループや専門家と一緒に文化財（観光素材）の洗い出しを行い、WEB等の素材として即活用できる観光素材調査台帳を整理した。

KPI 旧天領2地区を拠点とした体験ツアーの実施：
0回(H28)→12回(H31)

津和野城跡VRアプリ導入のための素材制作

観光資源である津和野城跡の観光客の増加を目的として、津和野城跡のVRアプリを導入するための素材を制作した。まずは、城の天守について絵図や歴史資料をもとに学識経験者の指導に基づきVR技術による素材を制作した。

KPI 津和野町観光リフトの利用者数：
21,201人(H28)→40,000人(H31)

旧天領地区の観光ガイド養成

旧天領地区を観光周遊するためのガイドの人材育成を目的として、当該地区の歴史について学習会を実施した。学識経験者を講師とし、対象は協議会メンバーを基本としながらも広く公募を行い多くの参加者が知識を深めた。

KPI 文化観光ガイドの登録者数:2人(H28)→12人(H31)

旧天領体験イベントの実施と観光実態の調査

旧城下町と天領2地区とを繋ぐ魅力的なプランを提供して観光客を増やすため、連携したまち歩きイベントを開催し旅行商品開発の検討を行った。あわせて観光客を対象とし、観光志向や交通手段の実態調査を実施した。

KPI 体験プラン、ツアーの数:0回(H28)→12回(H31)

① 魅力ある観光体験プランの開発

観光素材の調査成果を基に開発した観光体験プランで実施したイベントでは、町外から多くの参加者があり、魅力的なプランの提供が誘客に繋がった。

② 観光振興の協力者の増加

観光素材調査や観光体験イベントを通じて、本事業の取組みについて地域住民への周知を図ることができ、観光振興への協力者を増やすことができた。

津和野町【島根県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…津和野町／津和野町観光協会／旧堀氏庭園を守り活かす会／日原郷土史研究会／日原賑わい創出推進協議会

■構想策定年度…平成二十三年三月…
補助事業期間…平成二十九年九月一日～平成三十三年三月三十一日

情報
発信



情報
発信



人材
育成



普及
啓発



添田町【福岡県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
英彦山神宮／添田町観光連盟／
英彦山観光協会／英彦山神輿会／
英彦山子てんぐ塾／英彦山門
前町同好会／英彦山地域デザ
インLP

■構想策定年度…
平成三〇年三月改訂
■補助事業期間…
平成二九年九月一日〜
平成三〇年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

添田町の特徴ある歴史文化は町のシンボルでもある霊峰「英彦山」の信仰や豊かな自然から形成されたものである。その歴史文化を的確に保存・活用するため、「英彦山神宮と松会祈年祭」など6つをテーマとした関連文化財群と「英彦山地区」を中心とした2つの保存活用区域に設定された方策を実施して、人々の交流からシビックプライドの醸成を目指し、まちづくり、観光振興に活かしていく。

観光拠点形成の方向性

- ・「英彦山ブランド」とする情報発信事業の推進
- ・英彦山修験道の体験プログラムや若年層が楽しめるコンテンツ創成

観光に関する課題

- ・若年層の来訪者増加と広域的誘客層の獲得
- ・点在する豊富な文化・自然資源の有効活用

事業概要

英彦山歴史文化ブランド発信事業①

若年層向けに文化財の楽しみ方のコンテンツ開発としてワークショップやモニターツアーで検証した内容を元に、若年層が口コミなどで拡散し、英彦山を旅行先として選択する際に参考となるコンテンツが集まる仕組みのホームページを開発した。http://hikosanlove.jp/

KPI 20~30歳来訪者率増：20.5%(H28)→25%(H31)

情報
発信



英彦山歴史文化ブランド発信事業②

QRコードを生産者が商品に添付して、観光情報発信メディアとして活用するアプリケーションの開発とデータベースの開発を行い、商品情報や地域情報発信のプラットフォームを構築した。QRコード、SNSやスマートフォン英彦山で検索すると情報サイト閲覧が可能となっている。

KPI QRコードをつける商品の数：
0商品(H28)→30商品(H31)

情報
発信



英彦山文化再構築事業

英彦山修験道の歴史・文化を活かして、英彦山神宮等で企業や団体向けの人材研修をするプログラムを開発し、文化財となっている坊舎等を活用した事業を展開し、英彦山の特徴的な文化に触れる機会を創造して、魅力を増勢するカリキュラムを作成した。

KPI 体験者団体数：5組(H28)→50組(H31)

普及
啓発



英彦山歴史文化観光ガイド育成事業

添田町に登録されているボランティアガイドを対象に、観光客をリピーターとするために、来訪者の満足度を高めるための心得と、SNS等を活用して英彦山とのつながりを増やすための研修を通して、英彦山を中心とした添田町観光を担うガイドとして稼ぐガイドの育成を目指した。

KPI 観光ガイド数：5名(H28)→15名(H31)

人材
育成



成果

① 英彦山歴史文化の情報発信

QRコードやSNSを活用して、英彦山の歴史文化を楽しみながら、魅力発信してもらえる工夫と観光客自らが発信者となって認知を高めている。多くの観光コンテンツが提供できるようになった。

② 英彦山を活性化する拠点の形成

観光誘客の拠点形成へ向け、構成団体によって文化財の宿坊の草刈り、剪定などの環境整備が積極的に行われ、企業研修等の宿坊プログラムを運用した取組みとして誘客事業が推進されている。

日南市【宮崎県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
城下町・飫肥まちづくり協議会
／飫肥地区自治会／まちなみ
再生コーディネーター／日南学
園高等学校／宮崎大学地域資源
創成学部土屋研究室／日南市

■構想策定年度…
平成二十三年三月
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十一年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

平成21年3月に日南市・北郷町・南郷町の合併により新「日南市」が誕生した。市民の一体感醸成が課題となる中で、急速に失われつつある地域固有の歴史文化を再発見・再評価することで、各地域市民のシビックプライドを取り戻すべく日南市歴史文化基本構想を策定した。地域の個性を「見つける（再発見）、学ぶ（再評価）」ことで文化遺産を守るための保存や復興の取組みが進められるよう市民と行政の役割分担を明示した上で、それぞれが主体的な活動を担う。

観光拠点形成の方向性

- ・利活用を前提に継承と集客を両立
- ・体験を絡めた滞在型まちづくり
- ・観光消費額増加に寄与する業態へ
- ・地域文化のHUB機能を構築

観光に関する課題

- ・地区住民の高齢化
- ・空き家の急増
- ・飫肥城由緒施設入館者数の激減
- ・城下町周辺の文化遺産の未活用

事業概要

デンケンプロジェクションマッピング

文化財利活用の可能性向上を図るため、泰平踊りをはじめとした無形文化財を題材とした映像作品を文化財自体をスクリーンとして照射した。映像がそれぞれの価値をつなぎ、文化財の価値を若年世代にも訴求した。

■KPI 観光収入や文化財関係収入：
28,000,000円(H28)→42,000,000円(H31)

普及
啓発



デンケンシネマ

宿泊施設の利用客増加を目指すために飫肥の街並みを楽しむ夜の過ごし方の提案の一環として、飫肥を舞台とした映画・映像作品を、旧藩校である振徳堂で上映した。

■KPI 文化財催し、体験プラン、ツアー数：
6回(H28)→30回(H31)

普及
啓発



デンケンガストロノミー&マルシェ

今後飫肥城下で活用される文化財をはじめとした歴史的建築物への出店者公募を継続的かつ効果的なものとするため、出店可能性のある事業者を集めるガストロノミー・マルシェを実施した。

■KPI 観光産業従事者数：2,314人(H26)→2,500人(H31)

普及
啓発



デンケンアート

宮崎で活動するアーティストの作品を歴史的な建物で展示。新しい町歩きのリズムづくりとアートと文化財の融合を目指した。

■KPI 文化財催し、体験ツアー参加人数：
11,600人(H28)→23,200人(H31)

普及
啓発



成果

- ① **ユニークベニュー開催地としての外部訴求**
上記事業をデンケンウィークとして同時開催とすることで開催期間9日間で飫肥城下町に12,115人の観光客を集客することに成功した。
- ② **若年層の文化財利活用に対する理解促進**
来場者の40%が30代以下であり、74%の来場者が大変良かった(アンケート上最高評価)とイベントを評価し盛況であった。